

追肥・穂肥の時期が近づいています！

～収量・品質向上に向けて葉色に応じた適切な施肥を～

1 管内の「きらみずき」生育状況

- ・気温が高く推移しており、移植時期が早いほ場などでは、生育が1～2日早まっています。



写真：6月19日時点の生育
(5月15日移植)

2 葉色が低下したら追肥を施用しましょう

- ・「きらみずき」は初期生育が比較的旺盛で分けつを確保しやすい一方で、**初期生育が旺盛過ぎると穂肥時期までに栄養不足**となり葉色が極端に低下する場合があります。
- ・ほ場を確認し、**葉色が低下し始めたら、遅れず追肥を施用**しましょう。

追肥の目安

きらみずき栽培では
有機質肥料をご使用ください

●時期：**6月下旬（～7月初旬）**

●施肥量：

①化学肥料や殺虫・殺菌剤を使用しない栽培

基肥施肥法	追肥施肥量
全層	窒素成分 2 kg/10a
側条	葉色が低下し始めたら ^(※1) 窒素成分 1 kg/10a

②オーガニック栽培 ^(※2)

基肥施肥法	追肥施肥量
全層	移植後に米ぬかを散布していない場合、 葉色が低下し始めたら ^(※1) 窒素成分 1 kg/10a
側条	移植後に米ぬかを散布していない場合、 葉色が低下し始めたら ^(※1) 窒素成分 1～2 kg/10a

※1：**葉色板で3.8以下（SPAD値で35以下）になるまでに施用**

※2：有機JAS認証の認証機関によって使用できる資材が異なるので注意

3 穂肥を適期に施用しましょう

- ・収量・品質向上のためには、**生育後半まで葉色を維持することが重要**です。
- ・以下の施用時期・施用量を目安に、穂肥を2回に分けて施用しましょう！
- ・追肥を施用していないほ場で、**穂肥時期までに葉色の低下が見られた場合、穂肥を前倒しで施用し、葉色の維持**に努めましょう。
- ・葉色が濃く、いもち病の発生が懸念される場合は、施用時期を遅らせます。

穂肥の目安

きらみずき栽培では
有機質肥料をご使用ください

- 時期：1回目 **幼穂形成期（幼穂長1mm）の1週間前**
2回目 **1回目の2週間後**
- 施肥量：それぞれ窒素成分3kg/10a

(参考) 生育と施肥時期のイメージ（5月10日頃移植の場合）



4 いもち病や斑点米カメムシ類の発生に注意しましょう

- ・「きらみずき」は殺虫・殺菌剤が使用できません。
- ・病害虫の発生しにくい環境づくりに努めましょう。

●管理のポイント

・**余剰苗は早急に処分！**

補植用の余剰苗は葉いもちの発生源になります。
不要な余剰苗は早急に処分してください。

・**畦畔除草を行いましょう！**

畦畔の雑草が繁茂すると、カメムシ類の誘因源や増殖源になります。
また、風通しが悪くなり、いもち病の発病やまん延に繋がります。



熱中症にご注意ください！！

予防のポイント

- ①暑い時間帯の作業を避ける
- ②こまめな休憩と水分補給
- ③単独作業を避ける
- ④熱中症対策アイテムの活用



きらみずき

滋賀県産近江米